

平成 25 年度 他機関から採用となった准教授  
(講師) への研究推進のための助成 採択者

〔研究者〕
 <p>氏名 山崎鯛介 (やまざき たいすけ) 所属 大学院理工学研究科建築学専攻 職名 准教授</p>
〔タイトル〕
<b>堀口捨己の設計作品に見られる和風意匠の特徴とその形成過程に関する研究</b>
〔研究の概要〕
<p>堀口捨己(1895-1984)は、日本近代を代表する著名な建築家であるとともに、茶室・庭園研究の第一人者としても知られている。堀口捨己の和風建築は、建築学会賞作品賞(1952年)を受賞した「八勝館みゆきの間」に代表されるように、桂離宮や茶室などの古典に範を取りつつ、現代的な明るさや透明感をも取り入れた独自の意匠を発明したことで評価が高い。また、こうした意匠の形成には、戦時中の茶室研究が大きな影響を与えたことも指摘されている。しかし、戦後の堀口の和風建築について、資料に基づく個別研究はまだされていない。そこで本研究は、かつて堀口自邸に保管してあった資料を分析し、堀口捨己の作品に見られる和風意匠がいつ頃からどのような過程をへて形成されていったかを明らかにする。また、戦後作品の現存調査を行ってその保存状況を確認するとともに、それぞれの作品について堀口の和風意匠の形成過程という観点から考察し、堀口作品としての価値づけを試みる。</p>
〔オリジナリティ〕
<p>堀口捨己に関する資料は、かつて明治大学と自宅に分けて保管されていた。前者については、堀口の弟子の一人である木村儀一(元明治大学教授)を研究代表者に、平成9～11年度に科学研究費補助金を得て、筆者も加わりその膨大な史料の整理を行った。その内容は、主として設計に関する図面・その他の資料であり、学生時代の習作から晩年の実作まで、堀口のキャリアのほぼ全てをカバーするものであった。筆者らは、既にこれまで同史料を用いたいくつかの論文を発表している。後者については、平成16年10月初頭にご遺族から当時筆者の所属していた東京工業大学藤岡研究室に連絡があり、その資料の調査・整理をして欲しいとの依頼があった。調査の結果、その内容は明治大学所蔵史料に欠落していた設計図面(原図)、堀口の蒐集した蔵書、そして茶室研究に用いたと考えられる古文書類であることを確認し、平成18～20年度に科学研究費補助金を得て資料の整理を行った。資料は現在、基本的な整理を終え、東京工業大学藤岡研究室に保管されている。本研究は、これらの資料を用いて研究を行う点にオリジナリティを持っている。</p>

〔期待される成果〕

主に堀口資料に含まれているもののうち、以下の作品に関する資料の整理・分析を行う。資料は必要に応じてデジタル撮影を行い、貴重な資料は中性紙のフォルダーに丁寧に整理する。

- ・ 茶室如庵：実測野帳、移築再建に関する資料
- ・ 八勝館旧中店：青焼き図面一式（明治大学所蔵）、写真
- ・ 三朝温泉後楽：図面一式、および後楽所蔵の建設関係資料一式（工事関係書類、写真、青焼き図面）
- ・ サンパウロ博覧会日本館：図面一式（明治大学所蔵）

また、以下の建物について現存状況を確認し、また必要に応じて実測調査を行う。

- ・ 三朝温泉後楽（鳥取県東伯郡三朝町三朝972-1）：2008年度に一次調査を実施。
- ・ サンパウロ博覧会日本館（ブラジル・サンパウロ市）

以上の通り資料の分析、建物の現状調査を行い、堀口捨己の和風意匠の形成過程を明らかにするとともに、現存する堀口作品について、その和風意匠の価値付けを行うことで建物の保存活用を促すことを目指す。